

連盟会報

発行日：2013年(平成25年)10月24日

…◆第31号◆…(P-1)

発行：NPO法人 日本抜刀道連盟
企画・構成・編集：広報部
…事務局…

〒212-0012 川崎市幸区中幸町 1-17
☎：044-555-8660 FAX：044-223-7544

第22回 日本抜刀道連盟全国大会 鹿島神武殿で盛大に開催

連盟創設以来二十二年を迎えた本連盟の「第二十二回日本抜刀道連盟全国大会」が十月六日(日曜)由緒ある剣の聖地、鹿島の本部道場「鹿島神武殿」に於いて盛大に開催された。大会は予定通り九時に開会。大会実行委員長 中世古勝司(連盟副会長)の力強い開会宣言で幕を開けた。続いて国旗に拝礼し、静寂なる大会会場の中で一同は君が代斉唱。

この度の安倍内閣の国政で、内閣府兼復興副大臣として、日夜を問わず孤軍奮闘活躍する、本連盟名誉会長 岡田 広 副大臣からは、「この鹿島の地で生まれた剣聖・塚原卜伝は「剣は人を殺める道具にあらず、人を生かす道なり」との思想・哲理をもち、その流れにあるのが「鹿島神武殿」である。

そしてこの「鹿島神武殿」は、鹿島神宮の地に建立以来「人間は磨かれてこそ光輝き生きる」の信念のもとに、剣の技量の上達以上に「心・気」を鍛えることで、己の精神・人間性を高め、真の武道につながるのと、貴重なお言葉のメッセージを戴いた。

また、本連盟最高顧問 中村鶴治 鹿島神武殿理事長は、抜刀道は「剣道・居合道」の原点であり、我が国が世界に誇る精神文化の粋とも言うべき武道の源流をなすものである。

我々は常に、目先の技や勝負だけにとらわれず、技を支える精神を忘れてはならない。そして、日夜稽古に稽古を重ね己を鍛えるのも、自己の技と共に精神をより高い地点にと求める為であり、この「剣の原点」を忘れてはならないと力説された。

大会会長 大江正男 連盟会長は、抜刀道を修練する者が心すべきことは、ただ単に仮標が斬れた事で上達したと錯覚して自己満足してはならない。真の上達の妨げとなるのは「慢心や我執」である。何とか斬れても、角度が良くても、力任せの斬り方では斬ったときの音も違い、刀がねじれたり曲がったりする。力任せで斬るのか、技で斬るのか、刀を見れば自分の実力が解るので日頃の稽古に活かしてほしいとの指導のご助言があった。

…開会式…

◆写真(左側)◆ ⇨
大会を支える
審判団の先生方



◆写真(右上)◆ ⇩
海外「イタリア支部」を初め、
南は「沖縄支部」
北は「にかほ剣の会」秋田から出場した
各県からの支部代表選手。

⇐ (左)
大会会長 大江正男 連盟会長挨拶



続いて、審判長の注意があり、中島正夫大会審判長は、全国各地から集い、爽やかな気持ちで元気に再会出来たこと、何と素晴らしい事か互いに喜びあいたい。本大会は選手諸兄が日頃修練した成果を発表する、年一回の貴重な場であり奮闘を期待する。

競技は「開始線に始まり、開始線」に戻るまでが《審判判定》の基準となる。「形の流れの演武」にならない様に心掛け、威厳ある制定刀法としての認識を持ち、誰がみても「あの形なら斬れる」と認められる様な心技を發揮してほしい。狭隘化した大会会場内での、素振りには禁止する。刀の手入れは、壁に向かって周囲に注意して行い、安全確保に努める様にとの注意喚起があった。

続いて、第二十一回団体戦優勝チーム川崎支部からの「優勝旗返還」。選手宣誓は、同じく「川崎Bチームの佐藤敬子五段がおこなった。

露払いには、大江正男大会会長の立ち会いで、この度、傘寿を迎えた中世古勝司実行委員長が行い、参観する選手一同の傘寿を祝う拍手に迎えられた。

連盟制定組太刀は、中島正夫審判長の立ち会い解説により、打太刀・太田丈夫範士八段。仕太刀・藤田久男 錬士六段が凛々しく演武を行った後、競技開始の太鼓の合図で、各会場は審判団の先生方を中心に試合が展開され開会式で静寂した会場の空気を破り、選手諸兄の熱気と闘魂が、ここ鹿島の地に走った。

第22回 全国大会 “団体戦” 中倉旗 高知支部（A）に栄冠

：武道の聖地：
鹿島にはしる選手の気迫

競技熱戦を通じ、参加選手の練度の向上が目立ち各支部長を中心とした修練指導の成果を感じ取った。また大会競技は、審判主任を中心とした審判団の真剣なるメリハリある審判判定の姿に、選手も刺激を受け、気迫ある素晴らしい競技展開となった。

試合種目	優勝	準優勝	3 位		
制定 (形)	初段以下 2・3段 4・5段	岡本 秀之 (英信会) ウブスナダ (尚武館)	宮本 光三 (英信会) 伏見 由希 (尚武館)	石澤 和也 (八千代) 三宅 康司 (尚武館)	井本 健 (尚武館) 藤本 智秀 (高知)
個人	初段以下 (実技) 2・3段 4・5段	田村 哲 (川崎) ウブスナダ (尚武館) 松浦 健雄 (忠勇会)	長谷川建純 (千葉) 阿部 夏美 (川崎) 細川 毅 (高知)	井本 健 (尚武館) 工藤 孝裕 (忠勇会) 富田 憲介 (尚武館)	高橋すみれ (忠勇会) 藤部 慎也 (山形) 佐藤 敬子 (川崎)
団体戦 (中倉旗)	支部名 高知支部(A)	尚武館	讃岐抜刀道	英信館(B)	
	先鋒 中堅 大将	今村 文彦 藤川 隆 境 泰雅	小林 克巳 新藤 智之 上野 浩一郎	伏見 由希 井本 健 三宅 康司	田丸 詩穂 藤田 美香

◆入賞者一覧◆

…修練の成果…
高知支部精鋭選手の雄姿



◆優勝の栄冠を手にした高知支部(A)◆

合 写真上：後方（右から）

(先鋒)今村選手・中世古実行委員長・大江大会会長・(中堅)藤川選手・(大将)境 選手・中島大会審判長

…前列：高知支部の精鋭選手…



剣の聖地 鹿島の地 高段者審査◆称号審査実施

…◆審査委員◆…
 委員長 大江正男
 副委員長 中世古勝
 委員 中島正文
 審査員 太田文夫
 審査員 山中洋二
 …《進行》…事務局 菅野 茂



… 感謝状贈られる… 連盟組織活動に貢献



連盟広報誌「会報」を、平成18年から8年間に互り
 並々ならぬ苦勞を克服し《15号から28号》までを発刊した
 小林 大二 前・本部広報部長

※会報の発刊と広報活動
 小林大二 前・広報部長

※連盟ポスター製作協力
 松浦健城 忠勇会支部長

※沖繩支部等 結成貢献
 糸澤良全 鎌倉支部長

大江正男 連盟会長から
 大会閉会式の席上、日常の
 連盟組織活動に於いて
 貢献された
 左記の方へ感謝状に添え
 金一封が贈られた。

大会前日の十月六日(土曜)同じく
 本部道場の鹿島神社で高段者審査と
 称号審査が行われた。

◆高段者受審者◆
 六段…七名、七段…四名、八段…二名、
 ◆称号審査受審者◆
 錬士…二名、教士…一名。

…合格者(高段者審査)…
 六段 松浦健城・境 泰雅
 …合格者(称号審査)…
 錬士 藤田久雄・熊木昭夫
 教士 野村寛一

“個人戦”

◆新設◆
 …殊勳賞と文部科学大臣賞…

大会会長 大江正男 連盟会長は、本連盟全国大会の
 格式と更なる充実、競技出場選手の士気を盛り上げた
 いと、本件について、関係先と長い時間をかけ鋭意
 協議調整を行っておりましたが、その労が実り、今回
 の第二十二回全国大会から、新たに文部科学大臣から
 の「殊勳賞と文部科学大臣杯」が設けられました。

※制定(形)個人(四段・五段)優勝者
 殊勳賞・文部科学大臣賞杯 受賞
 富田 憲介(尚武館)

※制定(実技)個人(四段・五段)優勝者
 中村 泰三郎杯 受賞
 松浦 健城(忠勇会)

◆大会準備委員
◆会場設営◆

◆写真(左)から

菅野 準備委員長
松浦 忠雄 支部長
堀内 千重 支部長

◆高段者審査・
全国から集う
精鋭選手を待つ
大会会場◆



大会前日の10月5日(土曜)。早朝まだ外が暗い内に、菅野事務局長(大会準備総責任者)以下、大会準備委員は、大会会場へと集まる。大会前日に高段者審査会があり《高段者・称号》の受賞者…合計16名と多数が受賞。
12時からの審査開始に備えるため準備委員は、汗だくで《会場設営》に孤軍奮闘する。連盟広報部の確認では《会場設営》は、↑上の写真の様に《午前10時》には立派に完成し審査受審者と、全国から集う選手を待つ。大会終了後の《会場撤去》も準備委員は孤軍奮闘し撤去に走り回っており“ご苦労様!”と、声をかけるのが下がる…。

…菊づくり 菊みるときは 陰の人… (広報部)
“大会を支える陰の人々”

毎年“巻ワラ作り”を行い、大会を陰から支え連盟活動に貢献する“地元の支部”がある。今回その第一線で活躍する、剣誠会・藤田支部長にインタビューを試みた。今回の大会では“540本の巻ワラ”を“大会2週間前”の9月21日の午前8時から5時間かけて漬けたが、小雨の中でも実行すること。そして、大量の巻ワラなので“2週間の間に2回程”の水の補給を行う。今年も、大会前日に高段者審査会があった為、10月5日(土曜)午前7時から作業を開始し11時に終了したが、ケースを解体して《真っ黒に変色した水》を抜き、水洗いをしながら強烈な“臭みをとる”水きり後、大会会場に搬入したとの事。

我々選手が、全国から集い大会競技で“試斬”する“巻ワラ”準備の陰には、巻ワラ漬け込み時の“ヤブ蚊”と“悪臭”との強烈な闘いがある…。※正に、大会を支える“陰の人達”に感謝の気持ちを込めて拍手をおくろうではないか…。(広報部)



↑

◆写真(左)から◆
北郷 剣誠会 支部長
藤田 剣誠会 支部長
浦井 剣誠会 支部長
太田 笠間 支部長
森山 水戸 支部長

↓ ◆写真(左)から◆
中村 香川支部長・佐藤 山形支部副部長・野村 埼玉武山会副支部長

◆【記録】◆ ↓
大会競技の陰で
賞状を書き続ける
正木 旭 先生



↑ 笑顔で迎える
◆受付◆
(右) 同本部 会計
(左) 佐藤本部 監査



大会競技中の“安全を確保”する ◆刀剣検査◆

◆特別寄稿◆ おめでとう“東京五輪” (原文) 副会長兼教務部長 中世古 勝司

待ち望んでいた東京オリンピックが決定した。一九四〇(昭和十五年)日中戦争の泥沼化により五輪と万博が取りやめになって以来、一九六四年東京五輪と一九七〇年大阪万博の形で開催され、奇跡の戦後復興を成し遂げた日本の姿が世界を驚かせた。

当時私は、三十一才で脱サラ(二十八才)して起業間もない時期、忙しい中、柔道、ホクシング、陸上、水泳と精力的に競技した思い出が昨日の出来事の様に感じます。

今般知人の招致委員にお願いして、抜刀道連盟のボスターに「二〇二〇年オリンピック・パリリンピックを日本で！」を掲載させて頂き連盟会員一丸となって協力出来たことを嬉しく思っています。今回、五十六年ぶりとなる夏季五輪の開催を勝ち取った事は日本の文化経済の発展にとっても素晴らしいことだと思います。

二〇二〇年を目標に、二十一世紀にふさわしい成熟した多様文化の交流を実現させようではありませんか。

尚、会長の計らいにより、本年の形(四段・五段)優勝者に殊勲賞として文部科学大臣名で賞を授与することになりました。



◆お人柄◆ 紹介

◆武 道 歴◆
一 抜刀道 範士八段…
二 居合道 教士七段
(全日本剣道連盟)
三 弓 錬士六段
(全日本弓道連盟)
◆趣 味◆
一 朝翠流詩吟師範(吟師)
二 淡水流民謡師範(民謡)
三 観世流謡曲
(観世流吟師)
◆中国二胡研究会
◆座右の銘◆ 『一心不乱』
◆その他◆
外国航路船にパーサーと会社として乗船。退社後公認独立、計士事務所勤務後、独立。現在(株)新光商事、(株)キヤボン、明光不動産(株)を経営。グループの会長として現在に至る。



中世古 勝司 (80才)
本部 副会長兼教務部長

◆祝◆ 傘寿 露払い

本連盟も今年で二十二回の全国大会を迎えたが、会員数も毎年増加。連盟は着実に発展しつつある。我が連盟には、その推進力となつて、連盟の発展に貢献し今日を築き上げてきた一人に、中世古副会長がいる。

同氏は、この度、傘寿を迎え開会式では、露払いを行ったが益々旺盛。趣味は、これまた驚くほど広く、正に「文武両道」と言う言葉を現代で実践し、本業の事業でも成功している珍しい武人。その横顔をここでご紹介する。



◆都庁招致推進部長教訪員◆ 写真(左から)

白石 正樹 招致推進部長
中世古 勝司 連盟 副会長
菅 夏 茂 連盟事務局長



広報 編集…後記



会報31号は、第22全国大会と高段者(段位・称号)審査を中心に特集として5枚に組めた。しかしながら、全国各地から選手を迎え盛況に満ちた大会進行の陰には早朝から、会場設営に奔走する本部役員の間がある。

今日は「菊づくり 菊みるときは 陰の人」と題して「菊と言う大会」成功の陰には「大会を支える」各担当役員の間を祝する姿を「感謝の気持ち」で紹介し、その労をねぎらいたい。

◆事務局 便り◆

本部 事務局長 菅 野 茂

- ① 来る十月六日(日曜日)第二十二回の日本抜刀道連盟全国大会は、皆様のご協力により「十五時」に閉会出来ました。これにより遠方からの参加がより楽になりましたので、来年も大勢の選手の参加をお待ちしております。
- ② 連盟本部では、毎年一回、全国大会前日に鹿島神武殿で「六段以上」の高段者審査会を実施しております。従いまして平成二十六年度の「高段者審査会」は、三月三〇日(日曜日)の神奈川県立武道館・小道場では、九時から十二時までが「五段以下の審査会」が「時間厳守」で執り行われます。
- ③ 十二時から十七時までには「六段・七段・八段」までの「高段者審査会」です。
- ④ 詳細については、連盟ホームページでのお知らせと連盟メール登録者への「メール配信」にて十二月末頃にお知らせいたします。なお連盟メール登録がまだお済みでない会員は Info@nippon-datodo.com にて、お名前と支部名を入力し事務局まで送信して登録をお願いいたします。連盟からの「お知らせ」は「パソコン」と携帯メールにて、案内しております。